

今回の「基本計画」は、個別

の建造物の復元だけではなく、鳥取城と久松山の、いまだ完全には明らかになっていない特質を洗い出し、磨きをかけることをめざした内容となっています。

この「基本計画」では、「久松山および鳥取城跡」は、「鳥取市街地の景観的・歴史的ランドマークであり、鳥取市民の心のよりどころである」と位置づけ、「市民の心のよりどころ、憩いの場である鳥取城跡の価値を広く永く伝えるとともに、市

現在の大手筋



## 市民の歴史や景観に対する意識を呼び覚ます基点となる整備

- 1 近世の鳥取城だけでなく、中世の城郭跡・陣跡や自然環境も含めた、史跡の総合的な保存・整備をめざす。
- 2 市民の憩いの場として、また来訪者に史跡の価値を伝える場としてふさわしい整備を行い、滞留に値する観光資源としての価値を高める。
- 3 城下町を視野に入れ、歴史的景観醸成の基点となるような整備をめざす。
- 4 史跡の特性を活かした保存と活用を進める。
- 5 近世鳥取城跡については、建造物・郭・石垣・道筋などを視野に入れ、幕末期の全体像への復元的整備を行う。
- 6 既存施設については、移転も含めた検討を将来的課題とし、当面、併存を許容して整備を進める。
- 7 史跡の環境維持と活用のため、一元的な管理運営組織の設置をめざす。
- 8 史跡の保存・利活用への市民参画を促進する方策を講じる。

民の歴史や景観に対する意識を呼び覚ます基点となる整備を進める」ことを「基本理念」として明示したうえで、右のような方向性を示しています。

### 30年間の計画で幕末期の鳥取城を復元

市民の関心が最も高いと思われる近世鳥取城については、年代を鳥取城の最終段階である幕末期に設定したうえで、

▼建造物、石垣などの復元にあたっては、根拠が得られたものから検討する。

▼城郭としての全体構造を復元する。そのため、正面にあたる掘端、

本来の玄関口である大手筋（現

在は鳥取西高校の通学路となっている）の中ノ御門、太鼓御門、擬宝珠橋から復元整備に着手する。

▼二ノ丸の櫓群およびその他の建造物についても、調査・検討を続ける。

という整備を行う方針を示しています。

大手筋の門櫓群から取り組む理由は、復元の条件が比較的整っていること、また、鳥取城の前面、中央に位置する正面玄関を視覚的に顕在化させることによつて、現在わかりにくくなっている近世鳥取城の全体像が、イメージできるようになることなどによります。

また、門櫓群の復元作業を通じてノウハウを蓄積すること、現時点では完全復元の難しい二ノ丸の櫓群の考証の精度を向上し、復元の可能性を高めることができると考えられます。これは、歴史的価値の極めて高い史跡の遺構上に、史実に基づいた建造物を復元しようとした場合に、「基本計画」で特に重要視している点です。「基本計画」では、このように慎重に整備を進めていくこととし、全体の整備に要する期間を30年間と